

令和4年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）【定時制・通信制】

学校教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成
育成を目指す資質・能力	【目的】 多様な生徒の多様な学習ニーズに対応しながら、自立への意志を持って地域の未来をひらく「人財」を育てる。 【資質・能力（霞城8C）】 ①自己肯定力 ②傾聴力 ③読解力 ④思考力 ⑤表現力 ⑥行動力 ⑦自己管理能力 ⑧自立力		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和4年度重点目標	評価項目	自己評価	成果（○）と課題（●）	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見等
1 個に応じたキャリア教育の推進	①個に応じたキャリア教育の充実 ②「キャリアパスポート」「進路ハンドブック」「進路の手引き」等の有効活用 ③外部人材・関係機関との連携	B	<定時制> ○外部機関と連携を密にし、機会を捉えて適切に指導できた。 ●進路未確定者が出てしまった。	進路意識を高めるべく、早い年次の段階から意識の醸成をはかる。	B	・今後とも生徒一人ひとりを大切にされた指導を継続して下さるようお願いしたい。
			<通信制> ○個別の成長段階に合わせて、個別の支援。 ●キャリアパスポートの活用。	継続して「キャリアパスポート」の活用を進める。		
2 学習指導の充実による学力の育成	①「個別最適な学び」の推進 ②「主体的・対話的で深い学び」に関する研究・研修 ③ 総合的な探究の時間等の充実	B	<定時制> ○一人一台端末を利用し、各教科の学習や「総合的な探究の時間」において新しい学びのスタイルを推進できた。 ●基礎学力の定着をめざした授業の推進。	一人一台端末について、基礎学力の定着を意識しつつより良い活用策を工夫する。「総合的な探究の時間」においても更なる有効活用をはかる。	B	・端末をどのように活用すれば学習指導に活かせるか継続した研究が必要と思われる。 ・学力向上として深化して取り組むものと、多様なものに触れて社会にあるものの存在を知らしめる機会の創出を期待します。
			<通信制> ○新教育課程の目標を意識した学習報告書の作成。 ●通信制における「主体的」「対話的」を取り入れた学習報告書の作成。	観点別学習状況の評価の研究を継続する。		

3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	①ライフスキル・ソーシャルスキル、自己有用感の向上 ②自主・自律の生活態度と公共心の育成 ③いじめ防止	B	<定時制> ○毎日出席できている生徒の多くについては、基本的な生活習慣を確立させられた。 ●様々な学習や体験活動を経ての「霞城8C」の定着。	学校行事および生徒会活動等を通じて生徒の社会力を育成していく。	B	・これまで同様、霞城学園が培ってきた生徒との関わり合いで、社会に羽ばたく生徒を育てていただきたいと願う。 ・行事等の精選により、生徒の体験の機会が少なくなるのは残念。
			<通信制> ○生活の中で身を守る方法を学ぶ生活安全講話を実施。いじめ認知件数0 ●自己有用感を持つことができる機会。	様々な場面を通して他者を尊重したスキルトレーニングを組み込む。		
4 心身の健康増進と安心・安全教育の充実	①自己管理意識の向上 ②本校立地に応じた訓練・研修 ③危機管理マニュアルの点検	B	<定時制> ○予定された諸訓練を実施し、防災意識を高めることができた。 ●生徒に心身の自己管理能力をいかにつけさせるか。	心身の健康に関し、生徒・教職員それぞれに研修する機会を充実させる。	B	・今後とも継続した指導をお願いしたい。 ・通信制では特に連絡がなく様子がわからなくなる生徒もいることが心配だ。
			<通信制> ○安全に避難できる経路を確認するための防災訓練を計画どおり実施。 ●通信制での学習を通じた自己管理能力の育成。	状況に合わせた行動ができるようマニュアルの見直しを行う。		
5 特別支援教育の推進	①教育活動のユニバーサルデザイン等の推進 ②合理的配慮・支援の理解と実践 ③個別の支援計画の作成と実践	B	<定時制> ○個々の生徒に対する配慮のあり方・支援については概ね適切に行われた。 ●教育活動におけるユニバーサルデザインの一層の推進。	ユニバーサルデザインに関わる研修及び実践の充実。	B	・今後とも継続した指導をお願いしたい。 ・1年次生の要支援率が高まっている様子が伺えた。課題を見つけて取り組まれている姿勢を伺えた。
			<通信制> ○合理的配慮と個別に合わせた支援の実施。 ●個別の支援計画の効果的な実施。	ユニバーサルデザインの視点による再点検を行う。		
6 魅力・活力あふれ開かれた学校づくり	①魅力ある生涯学習講座の検討 ②ガイダンス機能を果たす情報発信 ③外部諸機関との連携	B	<定時制> ○外部諸機関との連携は良好である。 ●コロナ感染症のために、生涯学習講座は中止せざるを得なかった。	生涯学習講座については、来年度前期については中止とした。後期については生涯学習の重要性を鑑み、前向きに検討していく。	B	・生涯学習講座、次年度は是非再開して欲しい。 ・時節柄難しいかもしれないが、今後の社会様相の変化で同窓会との連携が図れる事業があればと思う。
			<通信制> ○必要な情報の周知のための『霞城通信』やメールの活用。 ●必要に応じた外部専門機関へのつなぎ。	必要な支援が有効に働くための様々な外部専門機関との情報共有を行う。		

